



エコパートナーシップうじたわら

うじたわらの木くん

～環を尊び 人と自然が未来をつくる 茶ごころのまら～

発行日：2026年6月1日（第111号）

編集・発行：エコパートナーシップうじたわら広報部会

事務局 TEL（88）6639 FAX（88）3231

2026年度総会を 開催します！

6月7日（日）午後2時～

宇治田原町総合文化センター 研修室！

エコパートナーシップうじたわらは、住民・事業者・行政が協働で「宇治田原町環境基本計画」を推進するため平成16年に設立された団体で、自然観察会などの環境学習やエコクッキング、会報誌の発行などの活動を行っています。

さて、今年も上記のとおり、総会を開催いたします。総会後は一般向けの講演会も開催しますので、お気軽にお越しください。

また、エコパートナーシップうじたわらへの入会をご希望の方は、当日受付いたしますので、受付窓口でお声かけください。

- ・ 講演：テーマ「京都在来ブドウ品種『聚楽』の復活栽培と
早咲き桜の解析と新品種開発」
- ・ 講師：板井 章浩氏（京都府立大学 生命環境科学研究科
果樹園芸学研究室・資源植物学研究室 教授）

1969年 大阪市生まれ。以降奈良市で育つ

学歴：京都大学農学部卒業、京都大学大学院農学研究科植物学専攻修士課程修了、博士（農学）

職歴：鳥取大学農学部助手、助教授、准教授を経て、京都府立大学生命環境科学研究科 教授

皆さんにとって身近に感じる環境とは何でしょうか。生物多様性や外来種問題などの自然環境、ゴミ減量、騒音、振動、排気ガスなどの生活環境、地球温暖化、気候変動などの地球環境、どれもこれも私たちの周りで起こっていることではありますが、何となく他人事のように思っていないでしょうか。ゴミの出し方ひとつとってもルールがありますが、都道府県、市町村など地域によってもなぜかルールが異なります。日本全国どこに行ってもルールは同じ・・・とはなっていません。共通化できるはずなのに、そうはなっていないのはなぜでしょう・・・効率化を求めない日本の7不思議の一つかもしれませんね。郷に入れば郷に従う・・・これは、日本人だけの特性なのでしょうか。よくわかりませんが、不思議とそれぞれの土地のやり方でいいんじゃない・・・と、思ってしまう。京都市にはよく行きますが、外国人の多さには少し辟易としてしまいます。電車の中などでは、日本のルールに従って静かに過ごしている外国人にはWelcomeと思いますが、けっこう大きな声でしゃべったり、電話で話し続けたりする外国人もいます。とてもWelcomeとは思えません。いい加減にしろ、日本の環境になじめないなら来るんじゃない・・・と、口にはだしますが、いつも心の中では思っています。もう、20年以上前になりますが、アメリカ、ヨーロッパ、アジア、アフリカ、オセアニア、南太平洋の島、多くの国々を訪れていました。もちろん、どこの国もこの20年ほどで大きく発展し変わってきたことと思いますが、人間性はそんなに変わらない。今も、将来も、少なくとも人間性は世界一・・・と言える日本であって欲しいものです。

エコパートナーシップうじたわら 会長 岩瀬 剛二

もう 20 年近く前になるか、初めはクロスバイクである。友人の別荘が淡路島にあり、そこを拠点に島を一周する計画（アワイチとはいえかなりのショートカットであるが）。現地到着後すぐに足慣らしをしたが、全く追いつけない。4～5人であったが全員ロードバイク。夕方から酒盛りが始まった。深夜まで。翌日二日酔いの友人が参加の断念を宣言。渡りに船。初めてのロードバイクに試し乗り。仰天。「自転車」というジャンルで括ってはいけない程の全くの別モノである。



かなりお高いが、どうしても欲しくなるのは決して贅沢などでなく自然の法則。

それ以後メンバーを募って、ビワイチ（琵琶湖一周）・フジイチ（富士山一周）・しまなみ海道・小豆島等々自転車で巡る輪行（自転車のタイヤを外しバッグに入れ、公共交通機関で移動すること）を毎年企画し実行した。一杯やりながら、鉄道や船などの時刻表片手に行程を練る作業は実走に勝るとも劣らない至福の時間である。

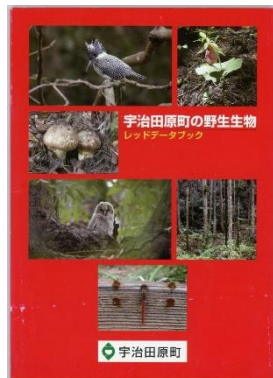
人が集まるとなれば、その目的と名前が必要となる。～心豊かな人生を過ごすため自転車を通じて仲間と共に心身をきたえる～を設立目的とし、少しの上り坂でへろへろになり、少しの酒でへろへろにはなるが、一人一人が立派なヒーローであることから「herohero HEROes」と命名。

Ecology Economy & Healthy を基本に何とか人生を歩み続けている高齢者の戯言である。

「実地調査による宇治田原町の野生生物データベース作成事業」スタート!!

令和6年度から行ってきた「うじたわら生物調査隊」の成果を発展させる形で、「実地調査による宇治田原町の野生生物データベース作成事業」を令和8年度からスタートすることになりました。「うじたわら生物調査隊」の活動も継続いたしますので、生物調査隊に参加している皆さんは、ご安心を。ただし、「うじたわら生物調査隊」の成果もデータベース作成事業の一部に組み込まれることとなりますので、隊員メンバーの皆さんはより一層のご協力をお願いいたします。

幸い平和堂財団による夏原グラントの助成金を受けることになり、潤沢ではありませんが、資金も何とかかなりそうな状況です。20年以上前の2005年度に発行された宇治田原町の野生生物レッドデータブックの改訂版を作成することが目標ですが、状況の変化に応じて、印刷物は作らず、WEB上での公開のみとすることを計画中です。宇治田原町の住民以外に、城陽市や宇治市在住の方たちにも手伝ってもらい、まずは1年間かけて町内を調査し、成果を公開することにしています。これからの1年間、あちこちで調査を行っている調査員を見かけることがあるかと思いますが、暖かく見守ってあげてください。また、年度途中には、成果発表会も計画しています。さらに、来年度からは、Instagramを利用して住民の皆様からの情報を集めて、データベースに加えていくことも企画中です。乞うご期待!



エコパートナーシップうじたわら事務局（宇治田原町農林環境課内）
 〒610-0289 京都府綴喜郡宇治田原町大字立川小字坂口 18-1
 TEL 0774-88-6639 FAX 0774-88-3231 Eメール: junkan@town.ujitawara.lg.jp
 会報のバックナンバーをご覧ください



宇治田原町役場HP「MENU（くらし・手続き）」⇒「生活・環境」⇒「エコパートナーシップうじたわら」
環を尊び 人と自然が未来をつくる 茶ごころのまち 宇治田原